

平成 18 年度 気象業務の実績評価(チェックアップ)における 評価基準(表現)について

業務目標の評価については、「達成度」とそれに向けた「取組」(手段や進め方など業務運営プロセス)の 2 点から評価し、その評価(表現)は、次の文言を使用しました。

「達成度」に関する評価

達成の判定が可能な目標(明確な指標)に対する評価(表現)

- 目標を達成
- 目標はほぼ達成
- 目標は未達成だが進展あり
- 目標は未達成

中期目標の評価において中途年度である場合に対する評価(表現)

- 目標に向けて大いに進展
- 目標に向けて進展あり
- 目標に向けてあまり進展なし
- 目標に向けた進展なし

数値目標がある場合、事業の開始・実施の有無などの達成度について明確な判断ができる場合など以外で、目標の性格から達成度の客観的な判断が難しい場合は、この「達成度」について評価しないで、次の「取組」のみの評価を行う。

「取組」に関する評価

取組についての適切性、積極性、効率性、有効性の 4 つの観点からの評価(表現)

- 適切(積極的、効率的、有効)
- 概ね適切(効率的、有効)
- あまり適切(効率的)でない
- 適切(効率的)でない

適切性は、取組の内容が業務目標の達成の方向に向いているか、合っているかどうかの観点(通常は、の表現)

積極性は、目標達成に向け積極的に進んで取り組んだかどうか(数値目標を大きく超えたか)の観点(「達成度」が の場合や取組が特によい場合などに用い、の表現のみ)

効率性は、取組が効率よく(達成予定期日より早く達成されたか)、無駄がないか(取組のコストが小さいか、また、取組の結果のコストが小さくなるか)どうかの観点

有効性は、取組の結果、基本目標の進展に貢献しているかどうかの観点(業務目標の「達成度」が、 の場合に用い、の表現のみ)